

7 コビサワラ原生林

中伊豆地区の真ん中を貫いて流れる大見川の支流・地蔵堂川のさらに上流にコビサワラ川があり、近くにほとんど手つかずの原生林がある。天城山の主峰・万三郎岳の北3.5kmの標高700〜750mの山中である。コビサワラという、その言葉の意味はどこに聞いても調べても解らない。

フナ、ケヤキ、モミ、ヒメシヤラの巨木にアカガシ、タブノ



▲ナベワリ



▲ハシリドコロ

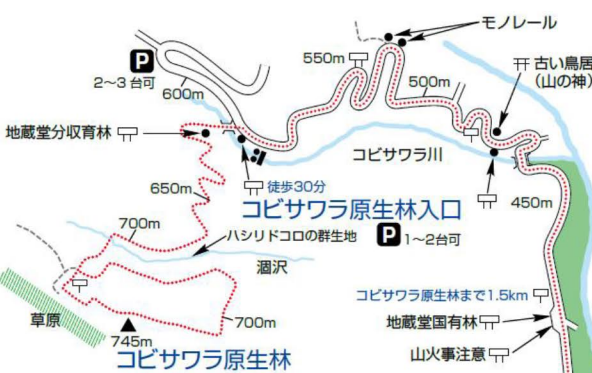
キ、イタヤカエデ、ミスギなどが鬱蒼とした森を作っている。野鳥の数も多く自然観察や森林浴、散策に絶好の所である。

また、この原生林の特徴の一つに、日本の三大毒草が自生していることがある。トリカブト、ハシリドコロ、ナベワリがあり、特にハシリドコロは群生が見られる。ハシリドコロは山間部の湿った沢筋に自生するナス科の植物で、これほど群生する所は外にない。新緑の頃、柔らかくて美味しそうだが、これを間違えて食べると苦しさのあまり走り回って、死に至ることもあるという猛毒の植物である。

しかし、毒と薬は紙一重で、使い方によっては鎮痛剤になる。目薬として瞳孔を広げる作用があるという。いずれにしても素人は手を出さない方がよい。

修善寺駅から筏場行ききのバスで28分、地蔵堂入口で下車。川沿いにすすんで地蔵堂川にかかる滝川橋を渡り、緩やかに上がると萬城の滝入口に着く。

左に入ると市営のキャンプ場で、車利用の場合はここに駐車して歩くことになる。(キャンプ場下にも広い駐車場がある・無料)

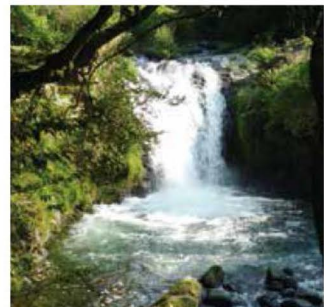


修善寺駅	バス	23分
地蔵堂	徒歩	20分
萬城の滝キャンプ場	徒歩	60分
コビサワラ原生林入口	徒歩	50分
コビサワラ原生林	徒歩	30分
コビサワラ原生林	徒歩	25分

●所要時間：約3時間50分(往復)



▲原生林の巨木を計る



▲小滝



▲萬城の滝



▲萬城の滝キャンプ場



萬城の滝から天城の原生林へ 三大毒草も見られる知られざる森

夏休みにはキャンプする若者や家族連れで賑わう。無料参加できる自然観察会も毎年行われているので興味ある人は、キャンプ場へ問い合わせるといい。

萬城の滝は右の石段を下るとある。高さ20m幅5mの美しい滝で、滝の裏側から眺められる所から裏見の滝とも呼ばれているが、現在は崩壊のため通行不可。夏休みの期間中はライトアップされ神秘的な雰囲気にも包まれる。

30mほど下流に千年木というケヤキの大木があって、シダ類やカエデ、ツツジ、スギ、カシワ、ツタウルシなど十数種類の着生植物が見られる。気を付けないといけないのがツタウルシで、かぶれ易い人は触ったり近づいたりしない方がいい。

滝の入口まで戻り林道を行く。すぐの広いバスの転回所から右にヒノキ林に入り、川沿いの遊歩道を上って行く。夏なら涼しい風が気持ちいい道である。

大きな堰堤を見てしばらく上がる。水量の多い小滝にぶつかる。小さいながら迫力のある滝である。ヒノキ林を抜けると再び林道に出る。右に道なりに進み、どこまでも続くわさび田を見ながら舗装道路を緩やかに上って行く。

萬城の滝からおよそ1時間でコビ

サワラ原生林の入口。車利用で原生林だけ歩くのであれば、少し先の路上や周辺に駐車ができるが、切り出した材木を運搬する大型トラックが時折り通ることがあるため、おすすめてはできない。

コビサワラ川を渡りスギ・ヒノキの人工林に入る。木の根元に青いネットが敷かれているが、これはシカに食われないためのものである。緩やかにシゲザクと上る。足元のフキのような葉の植物はイスカニコオモリ、道には黒曜石(火山の噴出石)が見られる。

マツが目立つようになると左下に涸れた沢を見下ろす所に来る。その沢筋に群生する植物が目立つようになる。ハシリドコロである。4月頃にはナスの花に似た暗緑紫色の花が咲き、花が終わると嘘のように何もなくなってしまう。

少し上って酒沢を渡り、スギ・ヒノキの林を抜けると原生林の端に出る。ロープ柵に従い林内をぐるりと一周して来よう。高低差も少ないので気軽に森林浴や自然観察が楽しめる。トリカブトのほかにはキミヤツルシキミなどの毒草もあるので要注意。木の葉・草の実にはやたらと手を出さないように。

帰りはもと来た道を戻る。